

にじいろ



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

茨城県西部メディカルセンター

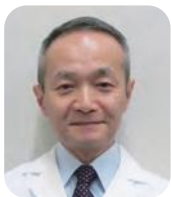
Ibaraki Western Medical Center



病院理念 地域の中核病院として患者中心の良質な医療を提供します。

理事長あいさつ

地方独立行政法人 茨城県西部医療機構 理事長 水谷 太郎



明けましておめでとうございます。
茨城県西部メディカルセンターは開院から3ヵ月余が無事経過しました。開院直後のやや不安定な時期から少し落ち着いた状況に移行したと感じますが、多くの課題があるのも事実です。

当院は、急性期中心の医療提供を行い地域で2次救急医療を完結する事が重要な使命です。開院以来、職員の多大な努力により多くの救急患者を受け入れ、その使命を果たしていることを実感しています。

また、当院は地域医療連携の拠点として予防医学を重視し地域医療支援病院をめざしています。地元医師会と密接に連携し「2人主治医制」を実践すると共に、大学病院や救命救急センターなどの高次医療機関とも密接に連携し、相互に必要な役割を果たします。当地

域で唯一の災害拠点病院として、災害に強い病院を作ります。教育機能を重視し、職員の学習や研修を積極的に支援して人材育成に取り組むことも重要な課題です。

当院の特色として、「筑波大学附属病院・自治医科大学合同茨城県西部地域臨床教育センター」の存在があげられます。両大学から複数の教員医師が配置され、医師数が増えると共に、医学生や研修医・専攻医の実習・研修環境が充実し、診療レベルの向上、研究活動や病院機能の活性化が期待されます。

当院は、その「理念」および「基本方針」に定められているとおり、健全で効率的な病院の経営に努め地域の中核病院として患者中心の良質な医療を提供することも重要な使命です。これらを達成するために、中長期的目標を踏まえつつ、様々な課題を職員一丸となって解決してゆきます。

病院長あいさつ

茨城県西部メディカルセンター 病院長 梶井 英治



茨城県西部メディカルセンター（以下、西部メディカル）は、地域の中核病院として、医師会、医療機関、行政、住民の皆様と協働し地域医療の確保・充実に取り組んでまいります。

西部メディカルは、2次救急医療（緊急性が高く入院治療や早期の手術が必要となる救急医療のこと）と急性期入院治療をしっかりと担ってまいります。この急性期医療により注力するため、外来は紹介状をお持ちの方を中心に診察させていただきたく思います。

高度な治療につきましては、周辺の大学病院をはじめ高度医療機関との円滑な連携を図ってまいります。急性期の入院治療が終わった後も、入院治療の継続が必要な場合には、さくらがわ地域医療センターをはじめ、回復期の治療を担当される病院に紹介させていただきます。

西部メディカルは、地域災害拠点病院としての役割も担います。健康づくりや病気の予防にも積極的に関わってまいります。医療人の育成にも尽力いたします。

病院長の役割は、地域の皆様のご期待に応えられる病院へと成長させることは勿論ですが、その推進力となる病院スタッフの強力な“わ”を築くことだと思っています。職員がお互いに尊重し、皆が一丸となって仕事に励むことができる職場づくりを進め、「職員が愛する病院」「職員が働きがいのある病院」にいたします。

さらに地域の中に足を運び、住民の皆様と一緒に「病院づくりは地域医療づくり、そして地域（まち）づくり」を合言葉に、安心して暮らすことができる地域を目指してまいります。

目標に向け、焦らず弛まず一步一步、歩を進めてまいります。よろしくお願い申し上げます。

各部署紹介



内科

内科 部長 岩 渕 聡



内科は、血液、代謝内分泌、消化器、腎臓、循環器、脳神経、総合内科の医師12名で3チームを編成し、チーム制で治療にあたっております。チーム制を採用することで、患者さんの病状と治療方針をチーム内で共有するとともに、チーム内および各チーム間で連携を図ることにより、各医師の専門分野に限定されずにより多くの患者さんの治療を行うことが可能となっております。

また、救急科とともに、内科疾患の救急外来受診や地域医療機関からのご紹介に対しても、速やかに対応しております。

今後医師の充実とともに、さらに地域に必要とされる医療を提供すべく、努力してまいります。

小児科

小児科 部長 中原 智子



小児科は常勤医2名体制で、筑波大等からの応援をいただき外来を2診体制で開いております。一般診療に加え、学校健診等で精査を勧められた循環器疾患や腎疾患、気管支喘息、低身長、肥満、発達障害等にも対応いたします。

救急は平日昼の乳幼児の受け入れは可能です。平日3日間は夕方の救急外来も開けておりますが、発熱が持続している場合は、できるだけ、十分な検査ができる日中の受診をお勧めします。

小児単独の病棟はまだオープンできない状態ですが、混合病棟で、この地域唯一の小児入院施設として稼働しています。

病児保育室では小児科医・看護師・保育士の連携のもとお子様を預かりしています。

外科

外科 部長 山本 雅由



筑波大学関連病院から3人（写真左から、池田、山本、中山）の消化器外科医が集まり、当院開院準備のため、2017年4月から県西総合病院外科で勤務を開始し、2018年10月1日からこの茨城県西部メディカルセンターで力を合わせて働いております。

対応する疾患は消化器外科全般はもちろん、当院では2次救急まで診ている病院ですので、一般外科にも対応しております。この筑西では、救急を含め大きな病気は、つくばや水戸、自治医大などの病院に紹介されてきましたが、これからは当院で十分といわれるように頑張りたいと思います。



整形外科

整形外科 部長 中川 司



運動器（骨・関節・筋肉・腱・靱帯・神経など）の疾患全般に対し、地域の医療機関と連携して患者さんの病態に応じた治療を提供します。初めて受診される時は診療をより円滑に進めるために地域病院・医院からの紹介状やレントゲン写真を持参されることをお勧めします。交通外傷、労働災害など2次救急対象で整形外科的治療が必要な患者さんの診療は救急科と連携して行っています。また高齢者に多い脊椎疾患や関節疾患に対する脊椎手術、人工関節手術、骨粗鬆症の治療及び同疾患に伴う骨折に対する手術も積極的に行っています。

形成外科

形成外科 権 知 華



形成外科では体表面の外傷や熱傷、悪性・良性皮膚腫瘍、先天奇形、眼瞼下垂など「まぶた」の外科、きずあと、ケロイド、腋臭症（わきが）など、幅広い分野を扱っています。日帰り手術が多く、時間的、経済的に患者さんに負担が少ない治療心がけております。

体表面のことで整容的、機能的に悩みを抱えていらっしゃる方がいれば、一度ご相談にきていただければと思います。



眼科

眼科 部長 国広 和人



白内障、緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症を中心に眼瞼、眼表面、前眼部、眼底にいたるまで幅広く対応できる総合的な眼科をめざしております。

白内障手術は短期滞在手術(1泊)にて対応しております。翼状片手術や複雑な要因のない緑内障手術および硝子体手術にも対応してまいります。眼外傷や急性緑内障発作など眼科救急にも可及的に対応いたします。より特殊性、専門性、緊急性を伴った病状の際は、大学病院など高度医療機関にご紹介いたします。外来は予約制となっております。

白内障手術申込専用の予約枠も設けております。担当医もしくは外来予約窓口にてご相談ください。



各部署紹介

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科 部長 梅村 崇



耳鼻科は毎日午前中及び月曜日、金曜日の午後に診察を行っています。木曜日は筑波大学の先生が診療を行っております。水曜日の午後は補聴器相談を行っています。診察及び聴力検査を受けてからの予約制としております。

慢性副鼻腔炎には、内視鏡副鼻腔手術を行っています。約1週間前後の入院となりますが、局所麻酔下で日帰り手術を行う場合もあります。通年性の頑固なアレルギー性鼻炎に対しては、日帰りレーザー手術を行っています。繰り返しの鼻出血に対しては、内視鏡によって出血部位を特定することで、適切に焼灼止血術を行っています。

頭頸部腫瘍の手術は行っていないが、CTやMRIによる検査は随時行っています。入院や高度な検査・手術治療等が必要な場合は、高次医療機関と連携し対応しています。お気軽にご相談してください。

救急科

救急科 部長 山下 圭輔



救急科は山下と大窪医師を中心に、院内各科、全スタッフの協力のもとに断らない救急を目指して診療しています。まだ院内体制が十分ではなく、脳外科疾患や急性心筋梗塞など対応できないものもありますが、重篤な患者さんも含めて広く対応できるようにしています。救急車受け入れ数も急激に増加し、統合前2病院合計の2倍近い搬送を受け入れています。ただ、今後さらに重症例に対応するためには、発熱だけや、外傷でも打撲程度と判断される場合は一般診療所、夜間休日診療所等に対応していただくなど、周辺医療機関との連携強化、住民の皆さんのご理解を得ていく活動を進めていきたいと考えています。

看護部

看護部長 菊地 里子



当院の看護部には、看護師、介護福祉士、介護ヘルパー、看護助手、クラークが在籍しています。

疾病をもった地域の皆さまが、住み慣れた環境の中で、できるだけ楽に安定して過ごせることを願っています。そのために、看護職に求められる役割を考え、外来、在宅ケアや地域の医療機関等とも、密に連携していきます。また、各々が臨床の場で培ってきた看護力を集結し、患者さんやご家族の自律を尊重するケアに繋げ、実践していきます。そして、私たちは職員同士、共に学び成長を認め合う風土づくりを目指しています。



看護部3A病棟 枝 一彦



西部メディカルセンターが開院し、3A病棟（外科系）に配属となりました。新人看護師として困惑する場面も多々ありますが、師長をはじめスタッフの皆が親身に指導してくれるので、同期と一緒に安心して楽しく看護を学ぶことができています。外科系なので、展開の早い治療・看護を肌で感じつつ驚きの毎日です。その中で患者さんの回復過程を考え、患者さんの声を聴きながらADLアップや自立に向けた個別性のある看護を提供することが大切だと感じています。そして多職種間での情報共有および連携をすすめることが、最善の看護に繋がると実感しました。患者さんの笑顔や喜びの言葉が仕事への力になるので、今後も笑顔で向き合うことを心がけ、一つひとつ経験を重ね技術を磨き成長していきたいと思っています。

外来師長兼地域医療連携部患者総合支援室長 三室 明美



外来では、一般外来・救急外来・内視鏡室・通院治療室・患者総合支援室を担当しています。外来業務が多様化する中、実践内容も変化してきており学びが多い環境でもあります。そして子育て中の職員には、仕事と家庭のバランスがとれるように互いに理解・協力し合うチームワークを育んでいます。私たち外来職員は患者さんが来院された時、最初に接する職員です。不安な思いで来院される方々の気持ちに、少しでも和らぐよう笑顔で対応し、常に患者さんの視点に立ち、多職種と連携した外来看護に取り組んでいきたいと考えております。



各部署紹介



リハビリテーション技術科

リハビリテーション技術科 川那子 誠一



当センターでは、リハビリ専門職の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍しており、病気・ケガ・寝たきりなどによって身体が不自由になった患者さまに対し、ふたたび元の生活に戻れるように、身体や心の両面から機能回復・維持を目的としてリハビリを行っています。

理学療法士は起き上がる、立ち上がる、歩くなど基本的な動きに対しての訓練を行います。作業療法士は身支度やトイレ動作、家事全般など、日常に必要な動作に対しての訓練を行います。言語聴覚士は話す、聞く、読む、書くなどの基本的なコミュニケーション手段や飲み込む事に対して訓練を行います。

放射線技術科

放射線技術科 科長 荒井 勝広



当科は全診療科より依頼される放射線検査及びMRI検査を行っております。主な検査業務は、一般撮影・骨密度測定・TV検査・CT・MRI・マンモグラフィ・ポータブル撮影・術中イメージ操作などで、日中ならびに夜間の救急にも対応できる検査環境を整えております。開院にあたって様々な最新鋭装置を導入致しました。検査の質を向上させるとともに、患者さんの時間的・身体的負担をできるだけ減らせるよう努めております。また、健診業務も請け負っており、皆様の健康を検査という面から支えています。その他、近隣医療機関からの医療機器共同利用も受け付けており、地域との医療連携にも貢献して参ります。

栄養管理科

栄養管理科 仁平 祐美



栄養管理科では、ニュークックチル・再加熱カートといった新システムを導入し、管理栄養士と調理師が連携して患者さんに安心・安全なおいしい食事を提供できるよう努めています。管理栄養士は、疾病の予防・改善につながる指導・患者さんに寄り添った指導を心がけ、積極的に栄養食事指導を実施しています。また、NST栄養サポートチームでは、入院患者の食事摂取量や検査データの評価、フィジカルアセスメント・食事形態の調整・嚥下評価など患者さんの身体状況を把握し、栄養管理科と多職種がその情報を共有しながら早期回復・早期退院に向けた栄養管理を目指し、日々業務に取り組んでいます。

臨床工学科

臨床工学科 主任 小野寺 肇



初めまして、透析と間違われる事が多い部署ですが、医師の指示の下、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行っている部署です。

臨床工学科には現在4名の技士が在籍しており、業務内容として医療機器管理（人工呼吸器・輸液ポンプ等）、ペースメーカー、急性血液浄化、透析等を日ごとにローテーションで行っております。少人数ですが、幅広くチーム医療に貢献できるよう努力しています。



臨床検査科

臨床検査科 主任 高橋 茂美



私たち臨床検査科は、臨床検査技師16名、事務1名で構成されています。柳林科長のもと、検査依頼に対し迅速で正確な臨床検査データを提供できるように努めております。臨床検査科は1階と2階にわかれています。1階は採血室と生理検査室になっており、患者様のからだに直接触れて行う採血や心電図、超音波検査、神経生理検査を行います。2階は検体検査室になっており、血液や尿などの検体を自動分析機器で測定したり、臓器や組織を調べる病理検査を行っています。また、救急医療に対応するため、夜間休日の時間帯でも臨床検査技師が常勤し、24時間体制で緊急検査への対応をさせていただきます。

薬剤科

薬剤科 江田沙那恵



薬剤科は薬剤師11名、事務1名の計12名で活動しています。(12月現在)

私たちは主に入院患者さんに対して入院から退院まで薬の管理、服薬指導、注射の調製を行っています。各病棟には担当の薬剤師が常駐しており、入院患者さんだけでなく他の医療従事者からの相談応需も受けています。

外来では、内視鏡検査時の検査薬説明、通院による化学療法を行う患者さんの薬の調製、予約入院の方の内服確認等を実施しています。

お薬に関して分からないことや気になることがありましたらお気軽にご相談ください。

入院・ご相談の際にはお薬手帳を持参していただく、確認等がスムーズですのでよろしくお願いします。



事務部長あいさつ

事務部長 佐久間 和久



2018年10月1日に地方独立行政法人茨城県西部医療機構茨城県西部メディカルセンターの事務部長を拝命いたしました。

茨城県西部メディカルセンターのある筑西・下妻保健医療圏は、人口に対する医師数の比率が全国平均の半分に達していない医師不足の地域です。

また、今後、消費税増税も控えており、ますます医療・病院を取り巻く環境は厳しい状況にあります。そのなかでも病院の運営上、課題を見出し、健全経営に向けて医師、看護師、コメディカル職員を事務局として支え、地域医療の中核病院として務めていきたいと思っております。

当院の事務局は、総務課、人事課、企画経理課、施設情報課、医事課により構成しています。

患者さん中心の安心・安全な医療を提供するために、それぞれにプロ意識をもって業務を遂行しています。

また、地域の医療を支える中核病院に勤務する一人として、全ての事務職員が一丸となって患者さん、地域の医療機関に信頼されるように、今後も日々精進していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

地域医療連携室

地域医療連携室 室長 飯島 望



当部署は、地域と当院を繋ぐ架け橋です。地域の医療機関とは紹介・逆紹介を中心とした連携を、ソーシャルワーカーは患者さんが自分らしい生活を送れるよう、「生活とこころを支える」援助を行います。

構成は、ソーシャルワーカー 5名（内筑西診療所1名）、事務職2名の計7名です。我々は院内、地域との連携を図るにはまず、「部署内の輪を大切に」を目標に、個々が互いを尊重し、意見を出し合ながら業務を行っています。そのため、部署内はいつも笑顔の絶えず、和気あいあいとした雰囲気となっています。

今後も連携室は、部署内の輪をもって、院内、地域との連携を深められる様、努めます。

医事課

医事課 課長 太田 さゆり



私たち医事課は、来院される患者さんと最初に顔を合わせる部署です。

スタッフは、外来・入院担当に分かれており、窓口では診察の受付、各種手続き、患者さんへの説明をはじめ、会計や診療報酬明細書(レセプト)、書類の受付業務を行っております。

また、医師・看護師等の業務が円滑に進むよう、サポートを行うことも大切な業務の1つです。

病気やケガを癒すことはできませんが、笑顔で親切丁寧に接することで少しでも不安な気持ちを和らげることができるよう、患者さんに寄り添った対応を心掛けております。

お気付きの点やお困りの事がございましたら、お近くの医事課スタッフにお声掛け下さい。

筑西診療所 所長あいさつ

筑西診療所 所長 佐々木 将人



筑西診療所は、市民病院が担ってきた地域の『かかりつけ医』としての外来機能を引き継ぎます。X線一般撮影やX線テレビ、超音波検査、心電図、緊急血液検査等の基本的な診断機器を整備し、平日午前中は特定の診療科にこだわらない総合的な外来診療を行います。

在宅医療に関しては、平日午後を訪問診療にあて、従来以上に積極的に取り組んでいきます。すでに在宅療養支援診療所として、先進的に訪問診療に取り組んでこられた真壁医師会の諸先生と力を合わせて、24時間365日の往診や在宅看取りの体制を地域に拡大していきます。

在宅患者さんの状態が変化し入院治療が必要になった場合、あるいは過酷な介護を続けてきた介護者の方々に骨休めが必要になった場合は、西部メディカルセンターの地域包括ケア病棟の全面的な支援を受けることができます。訪問看護室は訪問リハビリも提供する訪問看護ステーションとして、一層その機能を充実させます。居宅介護支援事業所は、ケアプラン作成を通じて在宅療養を支援します。

一方、数年以内に医療ソーシャルワーカーをさらに増員し、訪問診療を必要とする患者さんや認知症の方を介護されるご家族からのご相談に応じ、地域包括支援センターを補完する相談機能を担う予定です。また、ソーシャルワーカーの連携・調整力を活かして、診療圏内の医療や介護に関わる多職種の皆様と協働できるよう体制を整えていきたいと考えています。

皆さまから信頼される地域の『かかりつけ診療所』として、皆さまのご利用をスタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。

基本方針・救急外来・夜間受付・面会時間

基本方針

1. 地域医療のコントロールタワーとして保健・医療・福祉の連携を推進します。
2. 地域の住民や医療機関に開かれた医療施設とします。
3. 安全で心のごもった最善の医療を提供します。
4. 地域災害拠点病院として災害に備えます。
5. 健全で効率的な病院の運営・経営を行います。
6. 知識・技能向上のため研修に積極的に取り組みます。
7. 職員は相互の理解と敬意に基づき組織の融和に努めます。



救急外来・夜間受付

ご来院の前に以下をお電話でご連絡下さい。

- 患者さんの氏名・生年月日・住所
(当院の診察券をお持ちの方は診察券記載の番号をご連絡下さい)
- 患者さんの様子
ケガの方は
 - いつどのようにしてケガをしたのか
 - ケガの場所
 - ケガの程度
(キズの大きさ、深さ、痛みの程度、出血の有無)
- 病気の方は
 - 現在の症状
(体温、苦痛の程度や場所、下痢やおう吐の有無など)
 - かかりつけ医の有無
 - 既往歴
(慢性的な持病や過去に罹った大病、入院歴、手術歴など)

連絡先

茨城県西部メディカルセンター 0296-24-9111 (代表)

お持ちいただくもの

- 診察券 (お持ちの方)
- 医療受給証 (お持ちの方)
- 健康保険証
- お薬手帳
- 紹介状 (他の医院、病院からの方)

救急外来の場所

時間外入口を
入って右側の
夜間休日受付で
受付をして下さい。



※時間外入口は、
病院北側にあります。

面会時間

平日・休日とも 14:00 ~ 20:00 までです。

- HCU 病棟は重症患者を診療している為、面会に制限があります。尚、詳細については病棟看護師にお尋ねください。
- 小児科病棟での面会はご両親・祖父母のみでお願いします。
- お子さま連れでの面会は感染予防の為、ご遠慮ください。
- 電話でのお問い合わせについては個人情報保護のため、お答えすることが出来ませんので、ご了承ください。



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

茨城県西部メディカルセンター

Ibaraki Western Medical Center

〒308-0813 茨城県筑西市大塚 555 番地

TEL : 0296-24-9111 (代表)

FAX : 0296-24-9171

H P : <http://www.iwmo.or.jp/>



■診療科 内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、救急科、麻酔科 (水谷太郎)

■受付時間 初診 月曜～金曜 8:30～11:00
再診 月曜～金曜 8:00～16:30

■診療時間 9:00～17:00

■休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

■交通案内

・電車をご利用の場合
JR宇都宮線小山駅乗り換え、
JR水戸線下館駅下車
下館駅北口より広域連携バス・
地域内運行バスにて10分
(電車所要時間、小山駅から6駅25分)

JR常磐線友部駅乗り換え、
JR水戸線新治駅より車で9分
(電車所要時間、友部駅から8駅33分)

・車をご利用の場合

北関東自動車道
桜川筑西ICより17分、
真岡ICより33分



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

筑西診療所

Chikusei Clinic

〒308-0847 茨城県筑西市玉戸 1658 番地

TEL : 0296-28-2261 (代表)

FAX : 0296-28-4471

H P : <http://www.iwmo.or.jp/page/dir000008.html>

■診療科 内科

■外来診療日 月曜日～金曜日 9:00～12:00
(受付は8:30～11:00)

■訪問診療日 月曜日～金曜日 8:30～17:15

■休診日 土曜日、日曜日、祝日、年末年始

■交通案内

・電車をご利用の場合
JR宇都宮線小山駅乗り換え、
JR水戸線玉戸駅下車
徒歩3分
(電車所要時間、
小山駅から5駅18分)



・車をご利用の場合

国道50号線
「市民病院入口」信号から
北へ約100m

